

平成18年度 第4回鎌ヶ谷市文化財審議会会議録

1. 開催日時 平成19年2月9日（金曜日）午前10時30分～17時00分
2. 開催場所 南鎌ヶ谷地区の谷津（谷津田跡）現地調査及び総合福祉保健センター4階会議室
3. 出席者
（1）委員：下津谷委員長・新山副委員長・桑原委員・小川委員・佐藤委員
（2）市側：石井生涯学習部長、松永生涯学習課長・犬塚副主幹（文化係長）・三石主査
- 4 議題等
 1. 視 察：南鎌ヶ谷地区の谷津（南鎌ヶ谷4丁目地先・谷津田跡）の現地調査
国指定史跡「下総小金中野牧跡」捕込を清掃状況の現地確認
 2. 協 議：市内の文化的景観・里山について

【協議】

協議に先立ち、2月6日付で官報告示があり、『下総小金中野牧跡』が正式に国の指定史跡になった旨を事務局より報告した。

事務局：午前中は南鎌ヶ谷地区の谷津の現地調査を行った。そのあたりも含んで協議をお願いしたい。

委員長：まずは視察の感想を各委員からいただきたい。

委 員：水田跡が放置され、そのまま残っており、湿地を好む樹木が多く見られ、本来の湿地帯の様子が良く出ていた。鎌ヶ谷では減ってしまった風景であった。

委 員：30年以上前に調査のため歩いた。その時は馬込霊園側も埋め立てられていなく、谷幅はもっと広くあり、もっと奥（谷頭）まで谷は残っていたように思う。

委 員：水路が擁壁でなく蛇籠であるのがよかった。また川底が砂であったのもよい。利用価値の高い湿地と思った。

委 員：小川の水が印象的であった。蛇籠はろ過の働きもするので、整備の参考となる。船橋市にかかるのかもしれないが、斜面林も水の吸収に役立っている。

委 員：市川の大町自然観察園に匹敵する環境であると感じた。

委員長：里山という観点では人手が入っていない（かつて入っていたものが放置された状態）。

委 員：湿地で残っているのは鎌ヶ谷部分だけである。墓地側は既に造成で手が入りすぎていて、対岸の大学用地側の斜面も手を入れすぎると、湿地がダメになってしまう。清流は生き物である。

委 員：緑の時期も訪れてみたい。

委員長：今まで歩いた景観関係の中で水の状態が一番よい。風景も良かったと思う。

委 員：このような場所を生かしていくことも必要と思う

《 休 憩 》

事務局：（意見書案の読み上げ）何か問題点等あればご指摘いただきたい。

委 員：市民団体が環境的な活動もしているところもあるようである。市にはそうした受け入れ窓口はあるのか。

事務局：生涯学習課は直接の関わりはないが、環境や公園等それぞれ活動の中で行政との関わりを持っている。

委 員：市民レベルの活動をもっと育てていくことも大切である。横の連絡連携が取れる組織作りも考えて欲しい。

事務局：文化的景観は文化財保護法に基づいたものであり、合わせて条例改正も行った。この審議会の結果は関係各課に合議しており、今後も連絡調整していきたいと考えている。

委員：文化的景観は一般市民にまだまだ浸透していないので、広めることも必要ではないかと思う

事務局：現在は市民活動推進課が窓口となってNPOなどとの協働作業をすすめ、民間のノウハウをまちづくりにも活かしていく方向にある。

景観については今後、定期的な観察・記録を行い、将来に備えていきたい。また、そうした活動も協働ということも視野に入れて業務を推進していくことも必要であると思う。“市民活力”をもらい、対応していきたい。

委員：景観は市民への啓発も必要である。市民レベルに浸透することによって市民自身にも自覚が出てくるのではないか。

場所によっては整備するなどして、十分なPRもお願いしたい。

委員：1年間かけて調査を行ってきた現状についても報告することも必要ではないか。何があるのかなど注意を惹く必要もある。市民の自発的な気付きを促すことも必要と思う。

事務局：今回まで現地調査をし、保存が大切であるというご意見を伺った。行政体や所有者と共に生かして保存することに意味がある。記録を残すことによって、結果としてよいものは市民に還元すべきであると思う。時間をかけるべきものもあり、どの程度記録に残されているかということもある。その状態により即時対応、中期対応、長期対応と対応していきたい。またリンクできる記録を保存できれば良いのではないか。これからの展望が必要である。

本日の意見書を段階的なものとして捉え、また専門家にもっと現状を見てもらっていききたいとも思う。そうして積み重なったものがいずれ形となるのではないか。

文化的景観・里山関連での動きを行政としても先進市にも学び、また調査記録を残していくことも必要と思う。

委員：本日の資料では、これまでの成果がまとまっているので、調査一覧には今回調査した湿地は蛇籠が良い効果を出していることを明記して欲しい。

委員長：景観の成果をPRするために調査結果を広報などに載せてみてはどうか。

委員：PRしないことによって消滅してしまうものもある。物納や開発されてしまうことも少なくない。斜面を掘削する開発も出てきており、斜面林が消滅する危機がある。不便なら利用価値はないため開発の手が入りにくい、幹線道路がどんどん未開発地に入ってくることにより、それがきっかけで開発が進んでしまう。

事務局：以上、これまでに調査いただいた内容を（先に読み上げた意見書を）第1次段階の意見書として取りまとめでいただき、今後も調査、記録を行い、その結果を先生方にも監修いただきたいと思います。

《閉 会》

※同日、これまでの調査結果、まとめられた「鎌ヶ谷市の文化的景観・里山についての意見書」が文化財審議会委員長名で提出された。

以上、会議の経過を記載し、間違いがないことを証するため、次に署名する。

平成19年2月16日

署名人 新山 恒雄 ㊟